

JR南武線連続立体交差事業の取組報告②

「仮線高架」 工法決定

川崎市議会議員 末永直

川崎市議会平成29年第四回定例会が、11月27日より開かれており、12月20日に閉会する。我が自民党会派の代表質問（質問者・老沼純議員）が、去る12月6日、行われた。

質問内容は多岐にわたるが、割愛させていただくが、とりわけJR南武線立体交差事業（武蔵小杉駅～尻手駅）は中原区民の皆様が深く関心を寄せられているこ

との一つだと思うので本稿にて御報告させていただく。JR南武線連続立体交差事業の構造工法が先日、決定し、公表された。10月に庁内検討委員会で「仮線高架」が最も優位な構造方法と確認され、市民への説明

と確認され、市民への説明、有識者の意見聴取等を経て、「仮線高架」に決まった。概算事業費は約1185億円と候補の3構造工法の中で最も安価だ。踏切13箇所

全てが除去できる。しかし、本決定に時間を要した為、当初予定していた平成30年度の都市計画決定が困難な状況になる等、不安要素は拭い去れない。工事期間中の影響について多々疑問が生じる。

Q2. 用地買収期間と工事にかかる期間は、↓A【用事にかかる期間は、↓A【用地買収に5年程度、工事に10年程度見込んでいますが、今後精査する】

Q1. 電波障害、日照問題、プライバシーの問題、景観問題、高齢化社会に直面するためのホームまでのアプローチの問題等、デメリットはどのように整理されて工法の決定がされた、その対策はどの

Q3. 工事で生じる経済損失額の試算は、↓A【算出したロングレールの採用や、駅や道路のバリアフリーへの対応等が考えられるため、具体的な対策は今後、様々な課題が生じることが予想される。議会として本取組が着実に実施されるよう注視して参りたい。今回で本年最後の寄稿となる。皆様良いお年を。

仮線路を敷設し、現在の線路から仮線路に下り線から切替える

現在の線路（上り線）跡地に高架構造物を建設し、仮線路（上り線）を高架線路に切替え、さらに、仮線路（上り線）跡地に高架構造物を建設する

仮線路（下り線）を高架線路に切替え、仮線路跡地に道路整備を行う



末永直 プロフィール
○国立佐賀大学大学院 教育学研究科卒業
○参议院議員元秘書
○昭和58年5月27日 34歳
○政務活動事務所 〒211-0034 中原区井田中ノ町42-10
問合せ先 ☎044-789-5823

(1) 仮線高架
概算事業費：約1,185億円

現在運行している線路を一時的に仮線路に切替え、空いた線路敷き至高架構造物を建設する工法

